

「私はね、ニュースの伝え方っておかしいって思うんだ」。仲良しの広畑裕子さんが、話し始めました。「20%の人が福島県産の食べ物を食べないと言っているっていう報道があったけど、それって80%の人は食べているっていうことじゃない！なんでそれを先に言わないんだろう！そしてたら伝わり方が全然ちがうじゃん！」。鮮やかな問題提起です。

原発事故とは放射線物質の無差別大量散布です。それは相双地方の住民の暮らしを粉々にしました。しかし以来三年間、私たちは「子どもに

東北復興日記

82



福島県中小企業家
同友会相双地区会長
高橋美加子さん

子どもの笑顔ある日常へ

未来をつなぐ」という強い思いで、さまざまな活動をしてきました。

震災直後、全国から寄せられた保養受け入れの申し出を無駄にしたくないと、夏休みに千人もの

子どもたちの県外保養を実現させた市民の有志は「南相馬こどものつばさ」というNPO法人を立ち上げ、活動を継続しています。写真。

お母さんたちの不安を



何とかしようと立ち上げた「ベテランママの会」は放射能の勉強会を続け、三年間で参加者が三千人を超えました。

市民ダイアログから生まれた「みんな共和国」は何もなかった公園に冒険遊び場を創りだし、子どもたちがいきいきと遊びまわる姿に多くの市民が元気をもらっています。どれも、最初はたった一人の思いから始まっています。

今、確信を持って言えることは「人間にはどんな状態になっても生きよ

うとする力がある」ということです。私たちは原発事故で、普通の暮らしとは、人が自分の住む大地とともに紡ぎだすこまやかな日常の継続であるということを知りませんでした。地域の存続をかけて「子どもの笑顔あふれる日常」を取り戻すために動いています。

どうぞ南相馬に来てください。そして、ここで感じたことを周りの人に伝えてください。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。